

埼玉県本庄市に残る 1923 年関東地震に関する記録 ～本震直後に生じた人々の混乱～

篠田海遥*・荒井賢一(栄東高等学校)

§1. はじめに

これまで埼玉県内に残る 1923 年関東地震の記録調査の継続研究として、篠田・他(2018)(幸手市)、荒井・篠田(2019)(川口市)、篠田・他(2020)(防災意識に関する住民アンケート調査)等をまとめた。

本研究では本庄市(旧本庄町)を対象に、1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災に関する記録を調査した。旧本庄町は本震による揺れの被害はほとんどなかったものの、東京から流れたデマが拡散され、多くの犠牲者を出した地域である。本研究では以下の記録や文献に注目した。

- ①長峰墓地に残る朝鮮人犠牲者の慰霊碑
- ②「大正の朝鮮人虐殺事件」北沢文武著
- ③「かくされていた歴史 関東大震災と埼玉県の朝鮮人虐殺事件」関東大震災五十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会著
- ④「埼玉の朝鮮文化」松原日治著
- ⑤「本庄のむかし」柴崎起三郎著
- ⑥「本庄市史 通史編Ⅲ」

本稿では、①について §2、③について §3 にそれぞれ記述する。

§2. 長峰墓地に残る朝鮮人犠牲者の慰霊碑

本庄駅北口を出て徒歩 15 分程度の長峰墓地[本庄市東台4丁目4-4]に、「鮮人之碑」並びに「関東震災朝鮮人犠牲者慰霊碑」が建っている(前碑を A、後碑を B とする)。本稿では、両石碑の碑文を原文のまま記述する(改行は「/」を表し、旧字体は新字体に直している場合もある)。

A(正面) 鮮人之碑

(裏面) 大正十三年九月 卯日/本庄新聞記者団/泰平会社演芸部/建石

B(正面) 関東震災朝鮮人犠牲者/慰霊碑/日朝協会
会長 山本熊一書

(裏面)一九二三年関東震災に際し朝鮮人が動乱を起そうとした/との流言により東京方面から送られてきた八十六名の朝/鮮人がこの地において悲惨な最期を遂げた これを哀悼/して泰平会社演芸部と本庄新聞記者団が翌年九月鮮人之/碑をここに建立したがこのたび本庄市の援助の下に日/朝両国人有志によつて新たに慰霊碑を建立することになつた朝鮮が独立し朝鮮民主々義人民共和国が偉大な建設/を進

めつあるこの時期に慰霊碑を建立することは 痛/恨の中にも我々の喜びをする所である 我々は暗い過/去への厳粛な反省と明るい未来への希望をこめてこの碑/を建立し日朝友好と世界平和のために献身することを地/下に眠る犠牲者に誓うものである/一九五九年秋 原水爆禁止日本協議会理事長 安井郁 選文

B に記述されている通り、流言飛語によって旧本庄町では朝鮮人 86 名が犠牲となった。また、A 建立後に本庄市の援助のもと B が建てられていることが分かる。A の碑が既に建っているのにも関わらず B の碑が新たに建てられた理由として、⑥の「本庄市史 通史編Ⅲ」には、「鮮人」という言葉が朝鮮人に対する差別的表現に含まれているのではないかとのことから内容を修正して新たに建てられたと記されている。

§3. 「かくされていた歴史 関東大震災と埼玉県の朝鮮人虐殺事件」に記されている旧本庄町民の証言集

1974 年に発行された当文献には、地域住民(熊谷・神保原・本庄・寄居・その他)が流言飛語について経験したことを自ら書いた作文が存在している。

本稿では震災当時、旧本庄町に居た人々の作文内から、当時の状況を要約して記述する。

- ・二日～四日ごろ、駅構内で朝鮮人に警戒するようにと群衆が集まる前で話していた者がいた(複数者が記述していた)。
- ・本庄署では、三日夜から保護していた朝鮮人が四十三名いて、神保原(群馬県内)に移動していたところ、群衆につかまり、本庄署に引き返された後に虐殺されてしまった。
- ・何百人もの群衆が暴れまわっているのを、一人や二人の巡査では、手出しもできなかった。
- ・警察署で、八十五名程度の朝鮮人が殺された。
- ・殺害された朝鮮人の中には、地元ではよく知られている人の良い飴屋(この人物は唯一本庄から寄居に逃げたところで殺害された)もいた。

その他にも、朝鮮人虐殺の大変生々しく残酷な状況が多く記述されていた。